

①7

斎藤弥太郎之碑

大正13年（1924）5月6日 建立

「建立者」青森市長 工藤卓爾、阿部政太郎 ほか

「題字・書」篆額 川村竹治、撰 工藤卓爾、
書 近藤富壽

【解説】

青森市助役・斎藤弥太郎（1853～1917）の功績を称え、当時の青森市長である工藤卓爾らが発起人となり建立された石碑です。

斎藤は、当時青森市の財務立て直しに貢献したほか、水道事業にも尽力したと記録が残っています。町制施行がされた当時の青森の飲料水は非常に水質が悪く、その対応として上水道の設備に取り掛かっていた。更には当時青森市では明治19年（1886）にコレラ、明治24年（1891）には腸チフスが流行しており、衛生面から上水道の整備が強く求められていましたが、日露戦争による財政緊縮政策の影響で補助採択まで至らず、着工が出来ない状況が続いていました。

斎藤は、青森市水道事業計画をもとに、国や県に熱心にはたらきかけ、補助・起債を活用し、明治40年（1907）に工事着工にこぎつけ、明治42年（1909）に完了したとされています。



【石碑に彫刻されている文字】

（前面）

斎藤弥太郎氏之碑

斎藤弥太郎君は嘉永六年二月南津軽郡東光寺村に生れ初め郡村吏と為り後縣官税務署長に進み致る所令名あり明治三十二年四月青森市書記財務主任と為り紊乱せる財務を整理して面目を一新し又水道事業に盡したる等其効少からず明治四十三年遂に助役に挙る同年五月三日青森市未曾有の大災あり其復舊事業の難局に當りて盡瘁したるの効亦極めて大なりとす大正六年任満ちて助役に再選せられ七月病んで遂に起たず享年六十五悲夫君の青森市に職を奉ずる十八年其間精勵恪勤終始一日の如し君逝て既に八星霜往事茫々たり而かも花晨月夕一たび君を思ふ時は温容髣髴恍として其の人猶存するが如く追慕措く能はず乃ち同志相諮りて此碑を建つ嗚呼仰げば甲田の山は巍々たり俯せは青湾の水は洋洋たり君の徳風と治療とは此美なる用水と相待て此碑と共に長へに不朽に垂るべきを疑はざるなり。

從四位勲二等

川村竹治 篆額

工藤卓爾 撰

近藤富壽 書

從六位勲六等

（裏面）

大正十三年五月六日

発起人

工藤 卓爾

阿部 政太郎

北山 一郎

樋口 喜輔

石工

関 清太郎